



HPIはこちら



テーマ

システム連携による業務効率化

DXチャレンジのきっかけ

運送業の統合システムが欲しかったのですが、現行の運送業システム、デジタコ、在庫管理システム以外は、エクセルデータ管理をしていたので、連携が取れるようにしたかった。また、データ入力の手入力となっている部分が多かったので、データ取り込みで、手入力の削減を図り、効率化したかった。

具体的な課題

01 システム間のデータ連携

デジタコメーカーと基幹システムとの連携が不十分なため、データの入出力等が非効率となっている。

02 データ解読の効率化

デジタコから収集するデータが不完全なため、事務担当者によるデータの解読や修正作業に多くの時間を要している。

伴走支援取組内容

システム運用見直し

ベンダーとの連携を強化し、各システムの機能や役割を明確化するとともに、システム間での効率的なデータ入出力の仕組みの構築を検討。

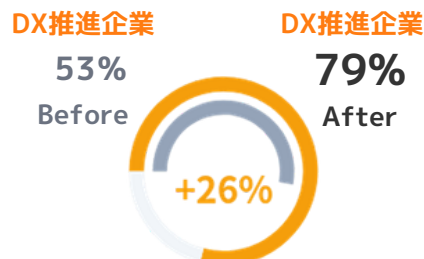
収集データの精度向上

システム操作方法やデータの確認手順の標準化を進めることでヒューマンエラーの防止を図るとともに、データ精度の向上のためのルールを検討。

得られる成果（未来予測）

- データ連携のさらなる**効率化**
- 業務標準化による**属人化の解消**

DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

企業担当者の声

現状調査を進めるうえで、特にデジタコデータをうまく運送業システムに取り込めていなかったことが判明しました。また、デジタコデータそのものの利用も限定されていて、一部しか利用できていなかったことがわかり、改善する見通しが立ちました。

今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXをあまり難しくとらえずに、気楽にシステムの専門家に現状調査をしてもらうことが大事です。その上で、業務の無駄の発見や効率化への方策が見つければ、改善が見えてきます。業務の流れややり方をシステム的な見地で見てもうことが大事だと思いました。